

Interview

フランス・インゼル社CEO

フランソワーズ・ヴィックス氏

フランス国立農学研究所主任研究員

ザビエル・ルベール博士

高いSOD(スーパーオキシド・ジスマターゼ)活性が期待できる生体SOD誘導物質「オキシカイン/グリンドリン」(日本総輸入販売元「ニュートリション・アクト」東京都港区、03・5475・7313)を製造販売しているフランス・インゼル社CEOのフランソワーズ・ヴィックス氏と、その機能性研究を行っているフランス・国立農学研究所食品安全人間栄養学主任研究員のザビエル・ルベール博士が来日した。本紙は両氏にインタビューを申し入れ、南仏メロン抽出物の「オキシカイン」と小麦抽出物の「グリアドリン」(商標名「グリンドリン」)を結合した素材に関する最新の研究動向と今後の市場展開の方針について伺った。



ルベール博士(左)とヴィックス氏

ルベール博士 私は出・生産を行っていたインゼル社のCEO・ヴィックス氏から、素材の潜在性について検討して欲しいと頼まれたことです。その当時、同社はオキシカインの作用による日持ち向上メロンの開発に成功しており、大麥風味を持しました。メロンの劣化や我々の健康へ悪影響を与える酸化ストレスのメカニズムについて教えてください。インゼル博士 酸素は生命の維持に不可欠

海は本来の酸素分子と似ていますが、酸素分子以上に不安定かつ強い性質を持っています。このことが各器官を構成する分子を酸化させるなどして体内に悪影響を与え、我々の体を老化させます。我々は、このような現象に対して植物由来の抗酸化物質であるビタミンやミネラルを摂取したり、生体内のた

ら白質であるSODを活用したりすることで、活性酸素による酸化を防いでいます。酸化ストレスを効果的に防御する素材として脚光を浴びている「オキシカイン/グリンドリン」の最新知見を教えてください。ルベール博士 我々は昨年、世界で初めて「オキシカイン/グリンドリン」の抗酸化作用を細胞レベルで確認

しました。これまでの多くの臨床試験は血液レベルのデータであったのに対し、我々の試験は細胞レベルでの検証であるため極めて確実性の高いものと言えます。具体的などのような試験を行ったのでしょうか? ルベール博士 まず無作為・二重盲検法により、健康者を高圧高

濃度酸素の環境(2.5気圧を毎日2時間、15日間にわたる実施)において酸化ストレスを与え、「オキシカイン/グリンドリン」投与群およびプラセボ群に分類しました。その後、白血球中のDNAの損傷状態を「コメットアッセイ」と呼ばれる画像分析法で検証しました。その結果、「オキシカイン/グリンドリン」投与群においてD

えています。抗酸化物質のメロンSODが胃酸の影響から保護し、腸壁に結着できるように小麦グリアドリンを加えたのが、「オキシカイン/グリンドリン」です。嫌気環境の腸内において、オキシカインが活性酸素による酸化を防ぎます。高い抗酸化力を持つ「オキシカイン/グリンドリン」ですが、具体的などのような症状へ利用が期待されるのでしょうか? ルベール博士 第一に、老化による機能不全の予防が挙げられます。慢性疲労のほか、皮膚の老化やアルツハイマー病、パーキンソン病の予防に有効だと考えられます。第二に循環器系疾患やアテローム(皮下にできる脂肪腫瘍の一種)の形成予防が期待されています。今後は、栄養治療の補助食品のほか、ペット向けのサプリメントとして考

細胞レベルで活性確認

SOD誘導物質「オキシカイン/グリンドリン」—— ペット向けサプリメントへも提案

す。この他にも炎症疾患や関節炎、筋肉痛などへの有用性を示唆する研究結果が発表されています。ヴィックス氏同様に、ルベール博士のお話の通り、「オキシカイン/グリンドリン」には様々な可能性が秘められています。インゼル社では今後、この素材を用いてどのような商品開発を考えていますか? ヴィックス氏 「オキシカイン/グリンドリン」は高価な素材ですので、現時点ではいわゆる「明らか食品」への応用は考えていません。タブレットやカプセルなどの形状を基本とし、他の素材と干渉しないサプリメントが中心となるでしょう。弱点として水への弱さが挙げられるので、これを克服することで飲料への応用も可能にしたいです。今後は、栄養治療の補助食品のほか、ペット向けのサプリメントとして考